

市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話 045 (661) 0166

新年を迎えて会長

会長 柳 下 隆 侃

本年の元旦は例年になく暖かさと、おだやかな好日を迎え心より新年の御慶を申し上げます。

昨年は市仏教連合会の諸行事に御協力をいただきまして厚く御礼申し上げます。特に、横浜市釈尊奉讃会の宇野会長をはじめ各役員

の献身的な御奉仕を頂きまして、諸行事が圓滿に出来ましたことは

ただ感謝の気持ちでいっぱいです。さて、本年の横浜市仏教連合会

主催により第十二回釈尊涅槃祭は、保土ヶ谷旭区仏教会の御協

力をあおぎ、二月十四日の土曜日の午後、国鉄「保土ヶ谷駅」近く

の「大蓮寺」様を会場に開催いたします。当日は法要を厳修した後、

日蓮宗常任布師でもあります大蓮寺御住職の「田島海義上人」に

「合掌で光を」と題してすばらしい講演を予定しておりますので、

どうぞ多数の御参加をお願い申し上げます。

その他、春には横浜市仏教連合会が主体となり、秋には釈尊奉讃

会が主体となつて行います仏跡参拝旅行もございます。このように横

浜市仏教連合会と横浜市釈尊奉讃会が手をとって一体となり檀信徒の教

化につとめてまいりたいと存じますので、ぜひとも諸大徳の御協力を切

にお願ひする次第でございます。

次に、昨年来新聞紙上において

さわがれております税務問題であります。特に税務署の立ち入り検査及び、税制の改正の問題もその影響が強く、私ども、寺院にも及んでまいりました。

この時にあたり、前日本仏教会と神奈川県仏教会は、「山一証券株式会社」の御協力を得て一月二十

六日に国鉄横浜駅西口にありまして「東急ホテル」を会場にして「明日のために今打つ手は何か」と題

してパネルディスカッションが開催されました。

さて、最後になりますが、昨年伊豆大島の三原山が大噴火いたしました。そして本土へ住民が避難

するとうさわぎになり、大変な事がありました。しかし年内に帰

島でき、おのおのが自宅で正月をむかえることが出来ましたことは

何よりの事とお喜び申し上げますが、避難中はいろいろな心痛があつたこととお察し申し上げます。

どうぞ身体に気をつけて頑張つていただきたいと思ひます。

私達僧侶も円高や税制改正等山ほどの問題をかかえた日本にとり

まして、どんな災難が降つて来るかわかりません。「治にいて乱れ

を忘れず」の言葉通り、心をひきしめて、「日々是好日」でありま

すよう、私達は僧侶として努力いたしたいものであります。

伽藍に吹く風



徳林 次郎



一月十二日、この日は曹洞宗の神奈川県寺院が大本山総持寺に上山し、親しく御開山である瑩山禪師に拝登をする日である。

まずは、紫雲台にて茶湯の接待をうけ、その後十一時より大祖堂にて御開山拝登をすました。この日は寒く足もとから冷え込んでく

るのがわかるが親しく御開山に拝登出来る気持ちは我が身がしまる思い出一同緊張している。そして心をこめて焼く一弁香は、本年の

心身安泰と本山の発展ならび宗門の発展等の喜びが身に伝わって来る様である。大本山総持寺の本堂

である大祖堂は、開祖瑩山禪師が、常在説法に常に今にいたしまして正法を説いてくださる大道場であります。現在間口約五十メートルに奥行約四十七メートルあり、床面積は六六一平方メートルあり

ます。外観もさることながら、内部の大華麗さも格別であり、毎日修行僧たちの勤行や種々の法要がおこなわれているところでもあります。

大祖堂での拝登をすました後、大本山総持寺貴主梅田信隆禪師との相見がありました。梅田信隆禪師は、当横浜市仏教連合会の名誉会長であることは諸大徳の周知のとおりである。

梅田禪師については、御就任の時すでに御紹介申し上げておりますので、ここでは略させていただきますが、特に新年の抱負を申し上げますが、「三松閣」

の建設の事でありまして、「三松閣」は早く申し上げれば、本山の大庫院となる建物であります。これが出来る事により布教活動も更によ

くなる事でしょう。

更に実践的市民運動へ

横浜市釈尊奉讃会会長 宇野忠夫

各位にはご健勝で新しい年を迎えられましたことと拝察し大慶に存じます。

私共、横浜市釈尊奉讃会も愈々その使命感に徹しなければと、一同張り切りの形で新しい年を迎えました。先づ本会の生みの親である市仏連の日ごろのご盡力と、ご教導に厚く感謝申し上げます。それと同時に今後一層のご後援をお願い申し上げます。

さて、年をこしてまず望まれますことは、それにつけても、昨年来待望の米ソ両国首脳の握手によって平和と軍縮の協定が結ばれることとあります。それから我が国が当面する問題は、先走り経済、特に貿易の問題でしょう。

「日本はもつと外国のものを買えそして輸入税を下げよ」といった要求が、E.C.国家(欧州)からますます強くなることでしょう。貿易港の横浜市民としてまた今後日本人の生活にいろいろな影響が必至と考えられるでしょう。

暮らしの問題ですから一言ふれさせて頂いた次第であります。

さて、伊豆大島の三原山の噴火は一番大きなショックであったと思います。島民の方々には心からご同情申し上げる次第です。

その後も一応沈静状態と伝えられ復旧作業も進んでいる中で島民が全員帰島で生活に仕事に励ん

でられることは何よりの事です。一釈尊のみ教へを体し
僧俗手を結んで
明るい社会をつくるべく

私達横浜市釈尊奉讃会会員は、その悲願を心に抱いて、本市仏教連合会のお力を頂いて一層実践的市民運動に向かって進んで行きたいと思ひます。

珍しいお寺と檀家

市仏連副会長 森山正城

我々が一般的にお寺と檀家を考える時、お寺があつて檀家がある一対一である。ところが最近珍しい話を聞いたのである。

檀家は一軒なのにお寺が2ヶ寺ある。これはA寺の墓地を使用しながらB寺を菩提寺として仏事全てを行つてゐる。不思議に思つて和尚にたづねてみたところ説明してくれた。

ことのおこりは、戦中戦後の時代にさかのぼりますが、当時は国民男子たるものほとんどが出征しているため、法事をお願いするにも住職はいない。やむをえず隣寺に老僧がおられるので其方にお願ひして法事をすませました。

終戦後もA寺は兼務寺で、住職

は不在であつたため、そのまま隣寺の和尚が全てを務めてくれたのである。自然のうちに菩提寺となつたのである。

昔は田畑を歩き山を越えてと云う時代ですから、間近と云う事ではかたなかつたのでしょう。

関係者の皆さんも悪気があつたとは思へませんし、戦争という事や、兼務寺という状態で仕方なかつたのだと思ひます。

しかし、昭和も六十二年であり共同墓地とはちがうのですから、そろそろ話を勤めて墓地のある寺を菩提寺とされるのが、よいと思

います。また一方現在の墓地はその寺に帰して、あらたに菩提寺に墓地をとり、すつきりとしたほうが良いかとおもいます。

余計なことかもしれませんが私の寺では例がないのでおどろきましたが、近隣にこのような例があるならば充分話し合つていただきまして円満に解決していただくことが大切だとおもいます。

ルンビニー園復興勸募について

一昨年全日仏、県仏からの依頼で実施されている「ルンビニー園復興勸募は順調に進んでおります。一ヶ寺五千円以上で区ごと又は団体という形の形で納入されて

おりますが、現在、神奈川県内では、約二百万円が事務局に預けられているのですが、割当予算額は七百五十万円ありますから、今

税務講習会を終えて

産運用について

一月二十六日横浜駅、東急ホテルで行われた、県仏主催、全日仏と山一証券後援の「宗教学法セミナー」は約二百名の参加者が熱心に耳をかたむけ、盛大に修了しました。そして大変参考になりました。其の内容については

一、税務調査を受けたときの心構えについて

二、反面調査と檀信徒との係わりについて

三、支出科目の中の宗教学法と個人負担の区別について

四、住職の給与額の設定(決定)について

五、収益事業の範囲に係わる問題点について

六、公益法人(宗教学法)に対する今後の課題傾向について

七、宗教法人にとつての有利な資

第十四回総会の御案内

一、日時 昭和六十二年四月二十七

日(月・友引)午後一時

一、場所 「西有寺」横浜市中央区太平町九六 電話(61)〇一六一

一、議案 1 昭和六十一年度事業報告 2 昭和六十一年度決算報告 3 会計監査報告 4 以上承認の件 5 昭和

後の諸大徳の一層の御協力を切にお願いする次第であります。

等いろいろありました。御尊台も毎日大変だと存じあげますが、このように、税務問題、民事問題でお困りの節には左の様に相談の窓口がございますので、ご遠慮なくお申し出ください。

◎全日本仏教会顧問弁護士 長谷川正浩先生 (毎月第二、第四木曜日法律無料相談室)

◎神奈川県仏教会顧問弁護士 今富先生(61)〇七六八

◎横浜市仏教連合会顧問弁護士 遠藤隆也先生(神奈川県白幡上町一八四番地)432 六一九二事務所

東京都台東区東上野二ノ一八ノ七 共同ビル上野五F

五二五五電話03(832)二八一九

六十二年度事業計画 6

昭和六十一年度予算案 7 以上承認の件 8 役員改選の件について 9 春の仏跡参拝の件について 10 その他 了つて懇親会

総会には関心をもち多額の出席をお願いします。

※

合掌で光を

大蓮寺住職 田島海義 上人

今日は横浜市仏教連合会の第十二回釈尊涅槃と言うことで、当大蓮寺を会場にしてください、その上講師までお願いされ、感さわまつて只全体がこきさみにふるえているところでございます。それに各区より布教活動を続けておられます各宗の先生方にお集まりをいただき、なお体がふるえるばかりでございます。今日は釈尊涅槃会に祭しまして「合掌で光を」と題しまして約一時間ほどお話を申し上げたいと思います。「旅坊主に所医者」と昔から申しますが、お坊さんは修行をしながら次から次へと旅をし知識をひろげて布教し説教して行く事が素晴らしいお坊さんだと言われている。また、お医者さんが旅をしていては「ヤブ医者と言われ信用をなくしてしまします。医者は一所にドカッとかまえていることがいい.....」。

しかし私は旅坊主でなくて所坊主ですので、ちょっとやりにくい点もございます。さて、話はお釈迦さまにもどしますが、釈尊は、カピラ城の王子としてお産れになり、苦しんでいる人々を救うにはどうしたらよいか三十五年間も修行をされ十二月八日にお悟りを開いたと言われております。この日を成道の日と定め各仏教会では成道会を催してお

ります。涅槃はお釈迦さまがお亡くなりになった日のことで、北枕にして顔を西に右腹を下にして涅槃にお入りになった日であります。菩提樹下で静かに御涅槃に入られた絵図がこれでございます。お弟子達がみんな手を合わせておりますが、手を合わせる法は、インドから来たもので「右仏、左衆生と合わす手の中ぞ良かしき南無の人」と言われますように、右の手は仏さま、左の手は衆生即ち我々、自分であります。その中に正しい信仰を得る事は実に尊いことでもあります。子供のころからいじわるばかりしておりますと大人になってもいじわるの人になってしまします。ですからいつも手を合わせ、特に挨拶をする時も頭を下げるだけでなく合掌をするようにしまししょう。そして子供たちにもそれを教えて上げまししょう。急に合掌をしろうたてはずかしくてできない!と言う人もあるでしょう。私達が夜寝るときに枕に頭をつけて寝ているふりをしているうちに本当に寝てしまします。それと同じで合掌のまねをしているうちに本当に心から合掌できるようになり本来我が身にある仏性が目ざめすばらしい人間となる事ができるのであります。仏の世界に地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上、声聞、圓覚、菩薩、仏とあ

りますが、人間の心にも十人十色でいろいろの心を持っております。「手を打てば、ハイと答える鳥にける、鯉集まる猿沢の池」と言う歌がありますが、ただポンと手をたたいただけで、女中さんは用があるのだと思つてハイと答えるし軒下にとまっていた鳥はビククリしてはたばた逃げて行く、そして猿沢の池にいる鯉はえさでももら



大蓮寺本堂内陣

えるのかと思つて集まつて来ると言うものです。ただ手を打つだけでもこのようにいろいろの現象が起こつてまいります。人間の心はもつと複雑であります、その良い方に向けて生きて行かなければなりません。仏教にこんな言葉がございます。――水を飲んで蛇はこれを―― 毒となす―― 水を飲んで牛はこれを―― 乳となす―― 同じ水を飲んで一方は毒を出すしもう一方は役に立つ乳を出す。

私達も同じものを飲んだら少しでも乳をだせようにしなければなりません。またこんな歌もございます。――人ごころ鏡に写るものならばさぞや姿の良いくかろうなとありますが、誰しも良いものばかりもつているわけではありません。そこで合掌で光を!であります。皆さんも、就寝なされる時、先づ、寝具を敷いて、枕を出して、バタツと倒れるように眠りにつく人がおりますか、おそらく一人もおりません。枕の上に自分の頭をのせて眠るマネをしている中に本当に眠りにおちいるのです。

初めは真似ごとで結構です、いややながらでもよいのです。何でもよいですから合掌の姿になつて下さい。いつも合掌をしておりますと、我利、我慾、不平、いじわる、地獄餓鬼、畜生悪い心はあります。話題が昔のことになりますが、横綱双葉山関が全盛の頃、六十九連勝であと一勝で七十連勝の時、安芸の海関に負けてしまいました。が、この時双葉山関は心の動揺を隠しきれず、身延山に登り、当時第二十九望月日謙現下のもとで毎日を修行しました。当時現下は足の具合が悪かつたので、朝の勤経の時、あの長い廊下を車椅子で往復いたしました。その車椅子を押した人は双葉山関でありました。ある朝、勤経を終えて現下と双葉山関が、お茶をいただきながらお話をしました。「双葉山関や、あなたは片方の眼が見えないのかい」と質問され

双葉山関はびつくりしました。たしか六才の時から右の眼がはつきり見えなかつたのですが、誰にも言わず、又誰も知らなかつた筈なのに。横綱は驚きました。

「法王さま、私の右眼が見えないのをなぜご存知ですか。私は不思議でなりません。どうか教えてください。お願いします。」といわれた時法王さまは、「あ々そがかいそれでは教えようかね、双葉山関が毎日車椅子を押してくれるけど、いつも片方へ曲がつてしまふ。あつと気付いて直すのだが、又曲がつてしまふ、本当に眼が悪いのかい」と現下に優しく言われた時、双葉山関は両手をついて、「法王さま!私はいつに初めて悔しいたしますが、私の右眼は六才の時からハッキリ見えなないので。若し見えないといつたならば、他の関取衆は私の右ばかり攻めて来るかと思つて今まで誰にも申し上げなかつたのでございます。」「双葉山関、私の方をよく見なさい、あらためて聞か、片方の眼が見えないでよく横綱になれたな!そしてよく勝つ事ができたな何か秘訣でもあるのかね。」と訊ねられた時、横綱は、「法王さま!私は呼び出しにシゴ名を呼ばれて土俵に登る時、塩をまく時、「合掌」を心の中で、しご本尊さまと心に捻じ、口の中でお題目を唱えておりました。又行司が軍配をひいて立ち上がつてからというもの、右眼が見えないため、全身を心のまなこにして肌で相撲をとつていたのでございま

す。あの様に全勝できたのも私の力ではありません。みんなお題目の功德、ご本尊さま、お祖師さまのご守護のためなのです。」

と涙を流して話されたということ。横綱として相撲とりとしては、土俵上では合掌することができないから、心の中で合掌したという事は実に感動するところであります。

合掌の姿こそ目に見えない大きな神通力を持っております。初めは外見の合掌でも毎日恥ずかしがらず続けている中に、習い性となつて心まで合掌の姿になつてまいります。

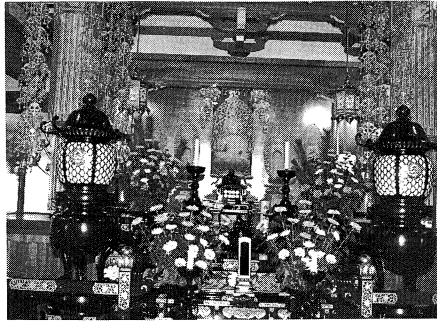
昔あるところに「ハナ」という嫁と「クマ」という姑がおりました。二人は常に仲が悪くどなり合つたり、にらみ合つたりの毎日を送つておりました。「ハナ」はこういじわるする姑がいなければ幸せに暮らせると思ひ、思い切つて姑を殺してしまふ決心をしました。

そこで「ハナ」は仲人親でもある近くの医者をつたすね、「先生うちのおばあちゃんがくたくたではありません。何かコロリと死ぬ薬はないでしょうか。」と門をたたいた。

「これハナや、何て事を言うのだ、仮にもわしは医者じゃ、医の仁術をもって病気をなおす事はしても、人を殺すような事はできない！」と何度も話をしたがハナはがんとしてそこを立たない。

「そうかお前がそんなに言うのなら一服毒薬をもうろう。しかし、薬はにがいからそのままではクマさ

んも飲まないだろう。だから、「アニコロモチを買つてその中にこの薬を入れて食べさせてごらん。」
「ハイ！良くわかりました。先生ありがとうございませう。」とハナはさつそくアニコロモチを買つて「オバアチャン今日はおいしいものを買つて来たよ。」といつてアニコロモチを差し出したところ。「うん！これはうまい。」



大蓮寺本堂内陣

といつてクマさんは喜んで食べてしまひました。ハナはそろそろ薬がきいてくるだろうと思つて、「オバアチャン気分悪くない！だいじょうぶ。」

「おいしくつたよ。ありがたうよ。」とクマさんは喜ぶばかり。おかしいな！あの薬、もしかして効かないのじゃないかとハナは思つてあくる日また医者をつたすねた。

「先生！あの薬じゃだめです。オバアチャンはピンピンです。」
「そうか！では今も、よもつと強

い南蛮渡来の毒薬を一服もうろう。これはもつとにがいから、もつと甘いモノカの中にも入れて飲ますとよい！」

「先生ありがとうございませう。」
と買ってモノカを買つてその中に毒薬を入れ、
「オバアチャン今度はおいしそ

うなモノカがあったから買ってきましたよ。どうぞ！」
と買って差し出すと、おバアチャンは喜んで食べてしまひました。もうすぐ臨終だからとハナはオバアチャンの肩をもんであげておりますとオバアチャンの両のほほに光るものがありました。

「ハナや！私はお前につらい事ばかり言つて本当に申し分けなかつた。お前にこうしてやさしくしてもらつと自分がはずかしく、これからは心を入れ替えて、良いオバアチャンになりますから。」
ハナはびっくりして、しまつたオバアチャンにもこんな心があったのか、私は大変なことをしてしまつた。と急に医者へ行き

「先生！あの毒を消す薬を下さい！」とハナはこれまでのことを話したところ、先生は

「ハナや！仮にも私は医者だ。最初のは砂糖で、二回目は胃の薬だ。オバアチャンは死ぬことはない！」

どんな人でも、悪い心を持つていれば、良い心ももつていきます。その良い心を引き出してくれるのが合掌であります。合掌をする事により、本来その人にそなわつている仏性が目を覚まし、良い人

間となつて来るのであります。私には、孫がおりますが、この孫が毎日ヨチヨチヨチと境内を散歩しております。寺には犬もおりますし、馬もおります。そして池もあります。何も知らない孫は毎日安心して恐いもの知らずで、ひとりでヨチヨチヨチと歩いてい

それは常にママがいつも見ていてくれるからであります。私達も、同じように毎日が安心して暮らす事ができるように、み仏さまがいつも見守つて下さるのであります。合掌をすることによつて、そのみ仏さまのご慈悲も次第に解つて来るようになります。

朝にはお願いのお線香を、夕べには感謝のお線香を、お願いします。朝は、今日も無事にすごすことができません様にと心をこめ、夕べにはお陰様で今日一日無事にすごす事ができましたと、感謝のお線香をお仏壇にあて、おまいりを



第十二回涅槃回法要 大蓮寺

して下さい。毎日そのつみ重ねによつて仏性に目覚め良い人間となります。「合掌で光を！」です。

永沢寺を参拝して

専務理 玄野 孝善

大本山総持の直来に「永沢寺」がある。昨年十月曹洞宗僧侶二十数名でこの霊場を参拝し御開山報恩の回向をして来た。

新横浜から新大阪まで行き、後は貸切バスで一路摂津、丹波の国へと向かう。バスでおおよそ三時間町をぬけ山路を登りまた下るとそこに永沢寺が堂々とかまえていた。このお寺は応安年間、後円融天皇が五州の大守細川頼之卿に七堂伽藍の建立を命じ、高德善知の通幻寂靈禪師を開山として開かれた寺である。寺籍は曹洞宗で未寺は十七ヶ寺のほか通幻禪師の系統の寺は全国に八九百ヶ寺ある。

本尊は釈迦三尊であり秋葉殿には火防の本尊として靈験あらたかな秋葉三尺坊大権現が祀られ奥の院には慈母観世菩薩が安置されている。建物は安永年間に再建された本堂、開祖堂、僧堂、庫裡のほか接賓、書院に加え勅使門（カヤぶきでは全国で二ヶ所）、玉兔門、金鶏門、山門があり境内は一万六千坪といわれている。

山門の前は一面の花しょうぶがあり花が開いた時はみごとで観光客も多い。関西方面に足を向けた節には一度立ち寄るとよい。

場所兵庫県三田市永沢寺210
電話〇七五六（六）〇四〇一

支部だより

金沢区仏教会

金沢区では、区内宗寺院の僧侶で組織された金沢区仏教会と、宇野忠夫会長以下、地区別の副会長四名、区内寺院の総代世話人二百二十名余を理事とし、一般会員七百余名を有する金沢区積尊奉讃会が、一致協力し、僧俗一体となつて仏教の啓蒙、信仰のすすめをめざす活動を続けている。

その様子を次に掲げてみた。

61・9・7・第36回仏教文化講座の開催。会場は寺前の葉王寺で講師は、京都堀川病院顧問、早川一光先生。続いて落語家、春風亭柳昇師匠。堂内はもとより廊下、階段まで聴衆であふれ盛況に終わる。行事の主任は東光禅寺小沢晶弘師。

61・10・11 第25回交通安全事故物故者追悼法要並び交通安全祈願大般若経転読法要及び金沢区積尊奉讃会理事回らびに総会の開催。

区役所、警察署、議員、交通安全協会等の関係者に遺族もこれに参列焼香をした。場所は町屋町の伝心寺。行事主任は光明院須方隆証師。

61・11・5 神奈川県戦没者慰霊堂奉仕活動の実施。葉王寺、長生寺、東光禅寺、光明院の出任。

61・11・22 寺院法律問題勉強会の実施。講師に立川法律事務所から立川正雄弁護士に來場いただき富岡の宝珠院で実施した。行事主任は宝珠院佐伯隆義師

以後は新春の予定であります。

62・1・19 新年総会の開催。場所は、追浜晶山。

62・1・23・24 伊香保温泉と高崎観音の参拝旅行の実施。

62・2・15 第26回涅槃会ならびに詠歌仏奉仕大会の実施。会場は洲崎の竜華寺。行事主任は長生寺六浦文英師。

62・4・5 花まつり大会の実施 出発会場は富岡の慶珊寺。大会会場は、同、長昌寺行事主任は長昌寺石沢彰文師。

62・5・13 定期総会の開催。会場は寺前の葉王寺。

磯子区仏教会

一、毎月無盡例会の開催で各寺順、次会所となる。

一、理事会の開催二回、総会一回

一、県仏教会、市仏連行事に協力

秋には積尊奉讃会の仏跡参拝旅行に参加協力

一、県慰霊堂奉仕の実施

一、歳末助け合い托鉢の実施。十一月十日は洋光台駅前にて行い副任職が積極的に参加し浄財金十万六千円を寄託した。

一、法人源泉の申告と年末調整の実施を行う。

一、忘年反省会の開催

一、懇親旅行の実施、毎年一泊で本年は六十二年一月十九日に熱海市起雲閣にて開催。

一、役員改選の実施。二月に金蔵院にて開催。

一、寺族の慶弔、見舞等を含め各寺院間の連絡を密にし懇親を

保土ヶ谷区仏教会

一、十月四日(土)午後五時より長源寺において区仏教会役員会を開催、秋の仏跡参拝旅行の最終打ち合わせを行う。

一、十月十五日(水)秋の仏跡参拝旅行の実施。曹洞宗の吉祥寺・サンシャインビル・ビール工場の見学。当日は天候に恵まれ二百五十余名の会員がバス五台の分乗し楽しく旅行を終えた。

吉祥寺は八百屋お七都寺小姓吉三の悲恋物語りで名く境内には二宮尊徳の墓地がある吉祥寺のすぐそばには、六義園という公園がある。ここは柳沢吉が五代將軍綱吉から拝領した土地を自ら設計し七年余りの歳月をかけて築造した名園である。

一、寺院マップの作成を区仏企画委員により行っている。これは、区内の各々の寺院の由緒等を誌し、写真を載せて寺院のアドレスと仏教活動の一端として作成している。

一、十一月二十四日(月)午後四時世り市仏連第十二回積尊涅槃会の当番として我が区が担当することになり、さっそく役員会を和田町で開催した。

一、積尊成道会を厳修
十二月八日(月)午前十一時より岩間町香象院に於いて行われた。保土ヶ谷区仏教会により法要が厳修され続いて天

深めるよう協力をおおぐ。

台宗円明ニ布教師、室生貞信

大僧正による法話が行われ百余名の檀信徒は感銘、この後同奉讃会の総会も開かれ事業報告、会計報告等がなされた。

一、歳末助け合い托鉢、十二月十六日(火)、相鉄線天王町駅と希望ヶ丘駅にそれぞれ午後二時より同四時まで行い、その浄財金十二万七千七百一円を神奈川新聞厚生文化事業団を通じて恵まれない人々に役立てていただいた。

一、涅槃会について十二月十九日(金)午後三時より大蓮寺で田島住職他、市仏連会より柳下会長、内野会計また、市積尊奉讃会より程木会計と区仏より会長、副会長、庶務会計により協議会を開催し第十二回積尊涅槃会に成功を祈る

瀬谷区仏教会

区内八ヶ寺のうち、数ヶ寺は、明治学制の当初から学舎として開放され、学童の教育の場として約二十年間中心の活動を果たしてきました。これは、地方文化、教育、運動などを通じて学童、青壮年のふれ合いと、研修の場であり道場でありました。これが昔の寺の姿でした。

現在、立派に荘厳された寺院、客殿等、整備された境内は地域の老人会、婦人会、青少年の学習の場として十分に利用されていることは評価され得るものでしょう。俳句会、筆供養、写経、読経の会、萩を見る会、茶会など、数十

人から数百人が法像を結びながら勉強できることも寺のもつ大きな意義といえしよ。

春秋二期、区内戦死病没者英霊(二百五十柱)の慰霊供養が区仏の奉仕で修行されることも遺族のかたの感謝のことばの中にその意が偲ばれるものであります。

秋の地区巡りで旧蹟、社寺を歩く人、述べ五千人の区民にとっての拠点となる寺での参詣、接待、珠印、説明等も心のふれ合いと信心を深める上からも大事なことであり、しっかりと続けたいものであります。

八福神と秋のハッ草について、ふれてみますと、巡拝のちなみ、区内で減びゆく草木、緑を大切にすることを考え、秋のハッ草をもうけ、その保護育成に努めています。が、鑑賞になるまでには、間がかりそうです。

年末助け合いの一助として区内福祉会を通じて善意の浄財を贈り続けて十年近くになります。本年は横浜市長の表彰をうけました。寺院のもつ伝統と、新しい組織と運営を通じてその個性を大事に育てながら、しかも地域の種々の文化、行事に積極的に協力し指導をしていくならば、寺院独特の誇りを持って信頼と尊敬という、地区住民と不離一体となった教線が拡大されていくことでしょう。

開かれた寺院の門を指向し、古聖の自信教人信の教えを改めて反省しながら今後の精進を希い併せて皆様の御指導をお願いいたします。

第十二回 釈尊涅槃会

昭和六十二年二月十四日、晴天にめぐまれ保土ヶ谷の丘は、さんと輝く太陽のもと、善男善女約四百名が参加し、僧侶も、保土ヶ谷地区の寺院をはじめ各区より約五十名が一同に会し、厳肅に法要が行われた。

午後一時をすぎると、ここ保土ヶ谷区神戸町(こうどちよう)の日蓮宗大蓮寺はひとときわにぎやかになった。三三五と集まる善男善女、「わあ！すごい」のため息が聞こえる。

実は、ここ大蓮寺(住職田島海義上人)は一昨年本堂が新築されたのである。約百坪近い大本堂で総樫作りであるからすごい。そして内の荘厳がまたすばらしく、具等は全て新調され、その中でも日蓮上人の直筆なる御曼陀羅を銅板に浮き刻りにしたのもやまた、水戸黄門の祖母である「オマン」が寄贈したと言う日蓮上人の座像等、寺の歴史をものがたる寺宝も数多く、実に素晴らしい寺である。

今回は市仏連の涅槃会は、ここ保土ヶ谷地区仏教会が当番にあたるに当たって、新本堂が完成したお祝いにぜひ会場をお借りしたいとお願ひしましたところ、心よく受けていただき実に良かったと思います。

午後二時殿鐘が鳴りひびき僧侶の入堂でありまる。導師である師仏連会長柳下隆侃僧上は、非の法衣に金襴の袈裟の堂々たるお姿で

入堂され着座、市仏連専務理事の玄野師の司会で先ず、市仏連副会長長森山師の開式の言葉をいただき鐘に合せて一同三礼、導師僧正は声高らかに三帰依文をのべ、一同それを唱和し、いっそう荘厳さを加えた。続いて導師の啓白文の奉読、我れら今日こうしておられるのも釈尊のみ教のためでありと朗々と啓白文を読み報恩感謝の意を述べた。

そして、大きな鐘の音によって読経が始まり、経文を手にした善男善女が全く僧俗一体となって読経するさまは、正に正法をこの世に残された釈尊の偉大さを表しているといつて過言ではない。そして回向に続き一同三礼をして法要を終了した。ここで約十五分休憩をとり第二部に移った。

第十二回釈尊涅槃会 於大蓮寺



第二部では、先づ市仏連会長の挨拶、釈尊奉讃会長の挨拶、続いて県仏会長、保土ヶ谷地区仏教会長の挨拶に続き、本日の楽しみである記念講演となった。

講師は、当会場の住職であり、日蓮宗常任布教師でもある「田島海義上人」である。田島上人のお托鉢修行 保土ヶ谷地区仏教会



事務日誌

- 61・10・5 県慰霊堂奉仕
- 61・10・18 前神奈川区仏教会長山本芳昭師本葬
- 61・11・5 県慰霊堂奉仕
- 61・11・20 金沢区仏教会
- 61・11・17 市仏連会報第二十三号の発行
- 61・12・9 役員理事会開催の通達
- 61・12・9 役員理事及び奉讃会との共同役員会と併せて忘年会の実施
- 61・12・9 役員改選のための選考

話は何度となく聞きつけている諸師もあろうが、お話に力が入りまた一般在家の方に解りやすく話して下さる事が一番魅力である。

本日は「合掌で光を」という題でお話をいただきました。お釈迦様はカピラ城の王子としてお産れになり苦しんでいる人々を救おうと三十五年間も苦行を続け十二月八日の暁の明星を見てお悟りをひらかれました。涅槃はお釈迦様が

お亡くなりになった日であります。手を合わせる法は古くインドから伝わったものでこんな言葉があります。「右仏左衆生とあわす手の中ぞよかし南無の人」右手は仏さま左手は衆生、それ合わすとおとさ人でありませぬ。仏教に「水を飲んで牛はこれを乳とす」「人心鏡に写るものならば、さぞや汝の見にくかるうな！」誰しも心にはいろいろあります。はじめはまね

編集後記

をするだけでもよいのですから合掌をして下さい。そのうち人間の心にある仏性がずーんと出てきて立派な人間になっていくのです。私たちには、いつも仏さまが付いて見えています。今すぐ合掌で光を！

今回は約二ヶ月程発行が遅れました。昨年の十二月二十五日までお願いした各区の会長さん十二支部の内寄稿があったのは四支部だけである。いつ寄せられるかと思つて待つていたが四区からのみである。その欄はポッカリ空欄になってしまい時期はずれ新年号にはならなくなつてしまった。各諸大徳も多忙であるが、原稿用紙二―三枚程度なのでもっと協力してほしい。編集するのの記事がなく、ほどほど困つてしまい編集時間がなくなつてしまった。

- 62・1・26 委員会の発足 全日仏、神奈川県仏共催による税務講習会に参加
- 62・1・30 第十二回釈尊涅槃会の件について保土ヶ谷地区仏教会と市仏三役の打合せ
- 62・2・5 県慰霊堂奉仕 中区仏教会
- 62・2・7 市仏三役と選考委員長との会談於梅林
- 62・2・13 市仏役員と保土ヶ谷地区教会と合同で涅槃会の準備を行う
- 62・2・14 第十二回釈尊涅槃会の開催と併せて記念講演の実施
- 62・2・19 三役会の開催 於て大円寺
- 62・3・10 会報第二十四号の編集

お願い

◎会報はできるだけ早目に会員の手もとにとどきますようお願いいたします。

◎会員相互の親睦を計るためにも会員諸大徳の感想文や、できごと等を事務局まで寄稿せられたい。